

# きぼう

ほっかいどう やかんちゅうがく かい  
「北海道に夜間中学をつくる会」  
かいほう なんばー  
会報 No.4



## こう りょう ちゅう ねん がん じゅ ぎょう 向陵中で念願の授業へ

さっぽろえんゆうじゅく ひがん がっこう きょうしつ けいぞくてき  
札幌遠友塾の悲願だった学校の教室を継続的に  
つか じゅぎょう こんねん ど みと は  
使ったの授業が今年度から認められ、晴れの  
にゆうがくしき がつ にち しりつこうりょうちゅうがっこう うえむら  
入学式が4月22日に札幌市立向陵中学校（植村  
としみ こうちょう おこな  
敏視校長）で行われました。

しんにゆうせい にん どう げんざい さいりしゅう  
今年度の新生は25人（同22日現在）で、再履修  
ふく とうこう げんかん  
を含め登校した新1年生たちは、玄関にかかる「遠

旭川に続き函館、釧路にも「自主夜間中学」（2ページに

かんぱん むか  
友塾」の看板に迎えられうれしそう。入学  
く どうだいひょう  
式では工藤代表のあいさつや植村校長の  
しゅくじ かくほ じんりょく さとうぜん  
祝辞、教室確保に尽力してくれた佐藤前  
こうちょう しきょう い きたはらきょういくちょう しゅくふく  
校長、市教委の北原教育長らの祝福  
う きたい ふあん  
メッセージなどを受け、期待と不安を織り  
ま まな き  
交ぜながら教室での学びのスタートを切りました。

### 遠友塾自主夜間



あいさつする工藤代表  
（北海道新聞から）

晴れやかに入学式

### ひがしげんかん かんぱん 東玄関に「遠友塾」の看板



こうりょうちゅう まな  
向陵中で学  
ぶ札幌遠友塾の  
せんようげんかん  
専用玄関となる  
ひがし  
「東玄関」に、  
りっぱ  
立派な「遠友塾」  
の看板が掲げら  
れしました=写真左=。教室を使わ  
せてもらえることになり、2月20日  
に工藤代表が同校の教職員の皆さん  
れい うかが さい せんせい  
さんにお礼に伺った際、先生たちから  
わたし きも おく  
「私たちの気持ち」と贈られたもの

よこ たて  
で、横21センチ、縦65センチで先  
がた て こころ よ き  
生方の手づくり。心こもる予期せ  
ぬプレゼントに工藤代表は感激の  
なみだ こえ で  
涙で声も出ないほどでした=写真  
した ほっかいどうしんぶん  
下（北海道新聞から）=。

これから看板は雨の日も風の日  
じゅこうせい みまも れきし  
も受講生たちを見守り、ともに歴史  
きざ  
を刻みます。



「つくる会」の今年の主な歩み (会報No.3以降の活動報告)

- 2009・01・14 向陵中で冬休み中の教室試行使用(3学期スタート)
- ・21 第2回3者協議(市教委、向陵中、遠友塾)
- ・31 第24回事務局会議
- 02・20 向陵中の職員会議、P T A 役員会であいさつとお礼。支援継続をお願い
- ・28 第25回事務局会議
- 03・26 向陵中と教室使用についての細部協議(かぎ管理など)
- ・26 市議会公明党の谷沢委員(文教委員長)と公立夜間中学設立へ向け、連携を協議(同党は市予算編成での重点要求項目としている)
- ・28 第26回事務局会議
- 04・14 第3回3者協議(市教委、向陵中、遠友塾)
- ・15 自主夜間中学「函館遠友塾」の入学式に代表出席。連帯のあいさつ
- ・22 向陵中で札幌遠友塾の第1回入学式
- ・24 第27回事務局会議
- 05・08 第3回定期総会議案などを発送。「つくる会」会報 No.4 発行

## 函館遠友塾が開校、入学式

戦争や病気などで十分に教育を受  
けられなかった人たちが学ぶ、自主夜間  
中学「函館遠友塾」(今西隆人代表)が開  
校、4月15日(水)に函館市総合福祉セ  
ンターで入学式が行われました=写真  
(北海道新聞から)=。道内の自主夜間  
中学は札幌、旭川に続いて3校目です。

札幌遠友塾スタッフだった今西代表  
が、転勤をきっかけに協力者を募り1  
年で開校にこぎつけました。

1期生は47人で  
毎週水曜日の夜、同  
センターで学びま



す。問い合わせは今西代表、  
(電話080-0098-0608、平日の午後4時  
以降)へ。

### 釧路「くるかい」は5月9日(土)に開校

問い合わせは賀根村さん(080-5595-7015)へ。

## ☆主な協議・交渉のまとめ☆

### ◇札幌市教委関係

札幌遠友塾が昨年の夏休み中に、2校の学校教室を借りて行った特別授業（試行使用）の評価を基に、札幌市教委は同11月、向陵中学校（植村敏視校長、3月末までは佐藤信校長、中央区北4条西28丁目）の教室の継続的使用を前提として、使用要件を話し合う3者協議（市教委、向陵中、遠友塾）に入ることを表明しました。

これを受けて遠友塾はこれまでに3回の協議に臨み、使用教室数や使用規則、使用料、カギの管理、緊急時の連絡体制、許可日以外の日に使用する場合の手続きなどを協議しました。そして3月13日付で3者で覚書（資料①）を取り交わし、許可（資料②）を受けて今年度から教室での勉強がかなうことになりました。（この間、冬休み中も同校の教室で試行使用の普通授業を1回行っています。）

同協議の構成メンバーは遠友塾ですが、「つくる会」も市教委などとの交渉窓口を担ってきた経緯や、遠友塾の交渉内容を超えた問題もあることから、3者協議に出席し意見などを述べています。今後の3者協議は、しばらく教室使用のようすをみた上で、協議する必要がある事態が生じた場合に行うこととなります。

また、4月の人事異動で向陵中の校長はじめ市教委の窓口担当などがかわりました。工藤共同代表（遠友塾代表でもあります）があいさつに伺い、あらためて協力のお願いをしました。

### ◇札幌市議会関係

今回、市教委からの向陵中学校の教室を継続的に使えることになったことで、これまで支援・協力いただいた市議会各会派へ、工藤代表らがお礼のあいさつに伺いました。合わせて継続審議になっている陳情の採択へ向けて、一層のご協力をお願いしました。

特に今年度の札幌市予算編成に当たり「市立夜間中学校を設置検討すること」を重点要望にあげた公明党とは、真意を聞いたうえで連携の道を探っていく必要があることから、工藤代表が市議会文教委員長の委員長でもある谷沢議員と接触しました。同党は市議会で質問したり、1月に広島県の観音中と二葉中の2校の夜間中学を視察するなど、この問題に積極的に取り組んでくれています。

当会としては予算要求の問題でもあり、他の党にも働きかけ運動を広げていき

いと考えています。

## ◇道教委関係

遠友塾の教室使用をめぐる3者協議など、具体的対応に力を削がれたこともあって、当会として報告するほどの活動はありませんでした。ただ、昨春の旭川遠友塾に続き函館で4月15日に「函館遠友塾」が開校、さらに釧路でも5月9日に「くるかい」が開校の運びで、全道的に「自主夜間中学」の輪が広がっています。当会としては全道的視野から、学校利用や財政支援、受講生の就学援助など課題解決と、設立趣旨でもある5項目要望の達成へ向けて、今後も引き続き道教委へ働きかけて行きます。

## ◇その他

北海道議会、道教委への「義務教育を受ける機会が実質的に得られていない人たちへの就学・修学保障の請願」に向け、民主教育をつくる道民連合や北海道教職員組合などと連携して署名運動に取り組んでいます。「つくる会」として他組織

と連携して活動するのは初めてです。6月議会に提出する予定です。

また、08年12月の全国夜間中学校研究大会で採択された「全ての人に義務教育を！21世紀プラン」と連携して活動を進めるため、大会を主催する同研究会の情報収集に協力。同プランの達成のために設けられる専門委員会への参加を求めて意見書を提出しました。

### エルプラザに事務ブースを確保



「つくる会」の活動拠点となる事務ブースが、4月からエルプラザ2階にできました。写真。同ブースの使用は3年が限度（1年ごと更新）で、今

「つくる会」の活動拠点となる事務ブースが、4月からエルプラザ2階にできました。写真。同ブースの使用は3年が限度（1年ごと更新）で、今同ブースの使用は3年が限度（1年ごと更新）で、今限りです。会員の皆さんの積極利用をお願いします。使う時（2階での印刷作業や打ち合わせの場合も）は、事務窓口にて備えてある記録簿に記入してください。なお団体登録番号は41763です。

# 函館、釧路から連帯の報告です

## 「函館遠友塾」の活動について

### 1、設立の経緯

札幌遠友塾に8年間かかわってきた今西が道南の七飯町への転勤を期に、09年4月からの函館遠友塾開校を目指し、08年8月より準備に取りかかりました。北海道新聞、函館新聞、朝日新聞などの報道機関や大学・専門学校講師の協力を得、塾生及びボランティアスタッフの希望を募ったところ、入学式までに入学希望者47名、ボランティアスタッフ36名の申し出がありました。入学説明会に参加しながら入学式当日欠席したり、入学式後に新聞などを見て申し出があった人が数名おり、最終的な人数は5月に入ってから確定される予定です。ただし、会場の関係で最大収容人数は50名程度のため、来年度まで待っていただく方が出る可能性があります。

### 2、授業内容について

教科は、国・数・社・理・英の5教科で1日45分授業を2コマ行います。授業開始は17時30分、終了は19時10分です。

年間授業時数は、国語20、数学20、社会11、理科11、英語15時間の予定で、一般の中学校と同じく夏・冬・春休みを設け、年間授業日数は39日。授業日は基本的に水曜日の予定ですが会場側の都合により他の曜日になることもあります。

授業内容については、高校を卒業している方も数名いますが、函館遠友塾の設立の狙いとして当然ながら、国・数・英に関しては基本の基本から始める予定です。ただし、例えば国語であれば「あいうえお」の勉強の中にも、どうして「あ」という文字ができたのかなど、大人向きのエッセンスを加えるなど、飽きない授業内容にすることを全体で確認しています。

### 3、塾生について

性別は、ほぼ男性10%、女性90%です。年代別では20代・30代・50代が各1名、60代が13名となり、70才以上の方が約65%となっています。

地域は90%が函館市内で、他に北斗市、七飯町からの方です。なかには、高齢者入居施設から一緒に（4名）で来られる方達もいます。

小中学校時の就学状況については、アンケートによると70代以上では戦争時

こんらん えんのう きんろうほうし  
の混乱、援農・勤労奉仕などにより学校に行けなかった方がほとんどで、60代以下の  
けいざいてき もんだい びょうき  
方は、経済的な問題や病気などによるものがほとんどです。

#### 4、会場について

函館市総合福祉センターを利用の予定です。利点としては、まずボランティア団体  
として登録することにより会議室（教室）の利用料が無料となり、また用紙を持参す  
れば印刷機を無料で使用することができます。また、J R 函館駅より徒歩10分の  
いんさつき しょう じえいあーる えき とほ  
距離にありセンター前にバス停があることも便利な点です。

しかしながら、6ヶ月前の朝9時からの先着順での予約受付であり、さらに福祉  
センター主催の会議が優先的に入ることがあり、今現在10月までの予約の内、約半数  
が火曜日の実施となり曜日が一定しないという問題があります。

函館市では、「社会学級」という制度（62年の歴史があるそうです）があり、放課  
後を地域・校区の社会的な活動に小中学校の教室を一般の団体に開放しています。  
りょう かのう とあ  
遠友塾としても、利用が可能かどうか問い合わせたところ、函館市教育委員会生涯学  
習課より、不可能との返答を得ています。

#### 5、費用について

用紙代、通信費などとして年間二千元を徴収する予定です、会場代、印刷代が  
無料のためこの金額で可能と判断しました。また、後述するように月に一度の給食  
を実施し、そのための費用も年間二千元を徴収する予定です。

#### 6、給食について

函館市総合福祉センターには技能訓練室があり、そこを利用して各月の最終週に  
簡単な献立で給食を実施の予定です。事務部の中に給食担当をおき、係を中心にメ  
ニュー、買い出しなどを行います。実際の調理では、スタッフの他、塾生にも声か  
けをする予定です。

#### 7、会議の持ち方について

月に1度全体で会議（スタッフ会議）をもちます。月末の最終回（給食日）に設定  
し、スタッフの負担軽減のため、授業終了後に行う予定です。

#### 8、当面の問題点

今現在半年先の会場確保はできていますが、それも確実なものではなく、さらに  
来年、さ来年となり教室が3教室必要になった場合のことが問題です。先に書いた「社

会学級」での利用について函館市教育委員会に働きかけていく必要性も感じています。

(文責 函館遠友塾代表 今西 隆人)

## 道東にも自主夜間中学ができました！

「自主夜間中学」設立釧路準備会 代表世話人 添田祥史

札幌、旭川、函館、そして、釧路。今春、道東にも自主夜間中学が誕生します。釧路市立総合福祉センターを会場に、毎週火曜日に開催することが決まりました。会の名称は、「くるかい」です。道東では、日常会話でよく語尾に「～するかい」と言います。いくつか候補があがりましたが、学習希望者の方から「友だちと『今日、来るかいに来るかい？うん、行くかい』みたいな会話があるといいねえ」という一言が決め手となりました。

「くるかい？」と呼びかけられているの誰か。そんなことを考えたことがあります。もちろん、まず学習を希望する人に向けられていることは間違いありません。学習希望者は、60名に迫る勢いです。20代から80代までと幅広い層の参加がみられますが、まだまだ働ける世代が全体の約半数を占めるのは釧路の特徴かもしれません。不登校やひきこもりでほとんど学校に行っていなかった人、高校中退者、再就職をめざす人、孫に手紙を書きたいと願う高齢者、学びたいと願うすべての人にひらかれた「くるかい」でありたいと思います。

と同時に、このことばは、実はスタッフにも向けられているのだと思うのです。スタッフは、毎週参加できる方が約30名です。その他に、毎週は難しいが数回参加できる方が20名と間接的に活動に参加できる方が20名ほどいます。スタッフも20代から70代までと幅広い年齢層の参加がみられます。大学生、大学教員、専門学校講師、OLさん、会社員、現役教諭、退職教諭、公立夜間中学校での教諭経験のある方もいます。そして最近、つくづく思うのです。私も含めて、スタッフも「くるかい」に呼んでもらっているんだと。

現在、5月の本格始動に向けてプレオープンと銘打って学習相談会と学習体験会を実施しています。学習体験会では、札幌の遠友塾さんに提供いただいた教材が大活躍です。長年の活動の実績であり宝であるオリジナル教材を惜しげもなく提供していただき、本当に、ありがとうございました。

スタッフ数が大幅に不足していること、会場の収容人数の問題など課題は山積  
しています。ですが、これから動いていくなかで、課題を一つ一つ解決していき  
たいと思います。解決した矢先からまた新たな課題がふってくるのでしょ  
うが、そのときはそのとき。考え、悩み、そして、笑いながら、ゆっ  
くり急がずに、だけど、さぼらずに、一歩ずつ歩んでいきたいと思  
います。どうぞ、よろしくお願ひします。

※なお旭川遠友塾からの報告は時間的に間に合いませんでした。総会で報告を  
予定しています。

全道各地の「自主夜間中学」は、それぞれが地域に根ざす独立した活動で、運営  
も独自の計画で進められています。「つくる会」は設立趣旨である公立夜間中学  
の設置など5項目要望の達成を目指すほか、こうした各地の自主夜間中学と情  
報交換するなど、ゆるやかな連携を保ちながら、会場確保や運営資金、受講生  
への通学費など、直面する共通の問題を解決するため、今後も道をはじめと  
する行政や議会、教育委員会などへ積極的に働きかけていく考えです。

## × モ

「北海道に夜間中学をつくる会」ホームページ

<http://yakanchugaku.enyujuku.com/>

「札幌遠友塾 自主夜間中学」ホームページ

<http://enyujuku.com/>

釧路自主夜間中学「くるかい」ホームページ <http://kurukai08.exblog.jp/>  
(「つくる会」ホームページにリンクしています)

夜間に熱心に学ぶ遠友塾生の姿が、テレビ各社で報道されてきましたが、これら  
の番組をネットの投稿サイトであらためて見ることができます。長いのですが、ホ  
ムページは

[http://video.nifty.com/cs/user/video\\_profile/detail/uid\\_0000008317/1.htm](http://video.nifty.com/cs/user/video_profile/detail/uid_0000008317/1.htm)

「きぼう No.4」発行日 2009年5月8日